

④-10 ミレニアム開発指標：開発のためのグローバルパートナーシップの推進

目標12：開放的で、ルールに基づいた、予測可能でかつ差別のない貿易及び金融システムのさらなる構築を推進する。

途上国からの先進国への輸入品のうち約3分の2は非課税であり、その率は増加傾向にある。しかし、途上国にとっての重要輸出品に対する関税率はほとんど変化していない。先進国における農作物に対する補助金も依然高く、非関税障壁となっている。

目標13：後発開発途上国(LDC)の特別なニーズに取り組む。
目標14：内陸国及び小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む。

近年ODAの総額は増加傾向にあるが、援助国のGNIに占める割合はほとんど変化していない。後発発展途上国は全体の3分の1の約230億US\$、内陸諸国は100億US\$、島嶼諸国は17億円のODAを受け取っている。

目標15：国内及び国際的な措置としを通じて、開発途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。

対外債務は、最貧国に限らず多くの発展途上国にとって発展の足枷となっている。

89

④-11 ミレニアム開発指標：開発のためのグローバルパートナーシップの推進

目標16：開発途上国と協力し、適切で生産性のある仕事を若者に提供するための戦略を策定・実施する。

全世界で12億人の若者(15-24歳)が失業しており、さらに漸増傾向にある。特にアフリカや西アジア地域では20%以上という非常に高い値となっている。

目標17：製薬会社と協力し、開発途上国において、人々が安価で必須医薬品を入手・利用できるようにする。

目標18：民間セクターと協力し、特に情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする。

全世界で600万人の人々がHIV/AIDS用の薬品を必要としている。そのうち4分の3がサハラ以南のアフリカに住む人々である。中所得国の固定電話保有台数は堅調に増加しており、携帯電話はさらにそれを上回る勢いだが、低所得国では、固定電話と携帯電話のいずれも低位のまま推移している。

90

3. エネルギー・資源

91

3. エネルギー・資源

① 世界の一次エネルギー消費量

世界の一次エネルギー消費量は2003～2030年の間に約50%増加。燃料別では新エネルギーの伸びが最も大きく2030年には2003年の5倍になる。化石燃料の消費量も増加し続け、ガス需要は76%、石油需要は47%増加する。
一次エネルギー需要に対する途上国の割合は今後も上昇し、2003年の39%から2030年には49%になる。

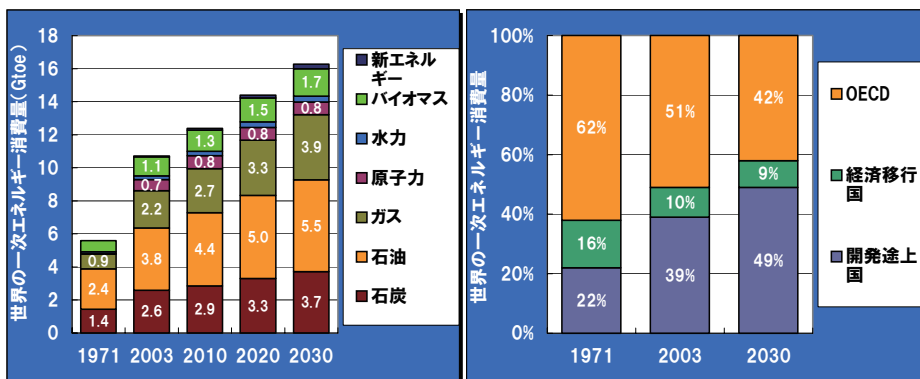


図. 世界の一次エネルギー消費量

出典:IEA (2004) World Energy Outlook 2005より作成

92

② 世界の石油消費量

IEAの予測では2030年における石油供給のOPECへの依存は現在より高まる。既に発見されている在来型石油の生産ピークは2030年前後なるが、新たな油田が発見されるため、2030年よりも前にピークが訪れることはないと予測している。

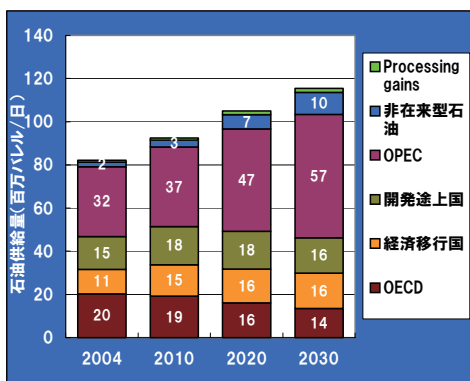


図. 世界の石油供給量(地域別)

出典:IEA(2004, 2005) World Energy Outlookより作成

表. 発見済在来型石油のピーク

	レファレンスシナリオ	低埋蔵量シナリオ	高埋蔵量シナリオ
在来型石油の最大埋蔵量(10億バレル, 1996年)	2626	1700	3200
在来型石油のピーク	2028~2032	2013~2017	2033~2037
需要のピーク(百万バレル/日)	121	96	142

93

③ 原油価格

IEA(2005)「World Energy Outlook」では現在の原油価格の高騰は一過性のもので、2010年にはバレル当たり40ドル(名目)になると予測している。2030年までの価格について、2003~2030年にかけて中東・北アジア地域に年平均230億の石油生産のための投資が行われる場合(レファレンスシナリオ)には、実質ベースの原油価格はほぼ横這いで推移する予測している。

表. 原油価格の見通し
IEA原油輸入価格(ドル/バレル)

	2004	2010	2020	2030
実質価格	36	35	37	39
名目価格	36	40	50	65

出典:IEA(2005) World Energy Outlookより作成

中東・北アフリカにおける石油生産のための投資額(2004-2030)

- Reference Scenario
年平均230億ドル
- Deferred Investment Scenario
年平均40億ドル

94

④ 原油埋蔵量

米国エネルギー情報管理局(2004)では米国地質調査所(USGS)の採掘可能な石油資源を2.2兆～3.9兆バレルの間とする推計と、EIAによる世界の石油需要の年率2%増とを組み合わせた試算の結果で、計算上ピークオイルは実際に採掘可能な石油の量により、2026～2047年の間に起きるとしている。

	究極回収量 十億バレル	年間生産量 百万バレル	石油生産の ピーク年
低位シナリオ	2,248	42,794	2026
平均	3,003	53,209	2037
高位シナリオ	3,896	64,862	2047

図. 2%の成長率および異なる埋蔵量を前提とした年間生産シナリオ(減少:B/P=10)

出典: EIA(2004) Long-Term World Oil Supply Scenarios
John H. Wood, Gary R. Long, David F. Morehouse

⑤-1 アジア地域を中心とする資源貿易

1983年のアジア地域における木材及び木材製品の輸出入では、東南アジア地域から日本への丸太貿易が大きな割合を占めていた。1998年には中国の丸太・パルプ材・パルプ・紙の輸入量が大きくなっている。

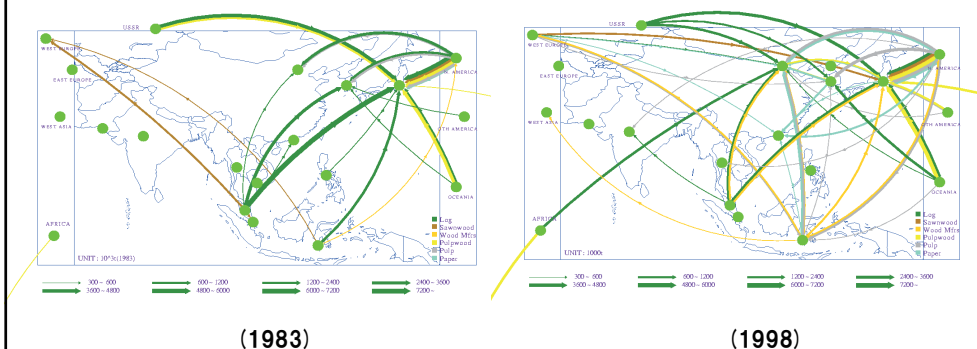


図. アジア地域を中心とする資源貿易[木材、木材製品]

出典: 国立環境研究所「マテリアルデータフローブック」